



今後の取組について

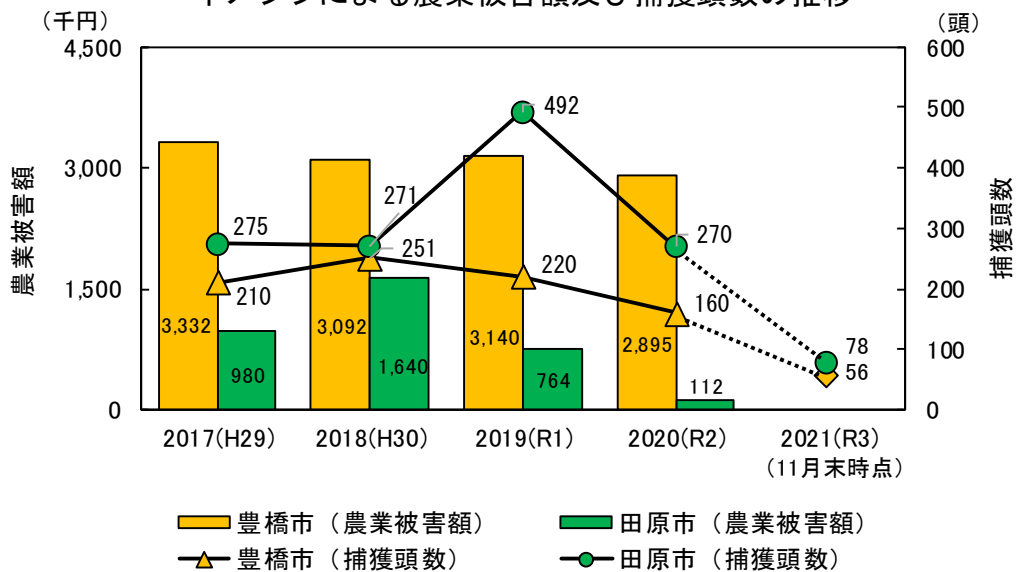
1 当初目標

渥美半島からの野生イノシシの根絶を図る。

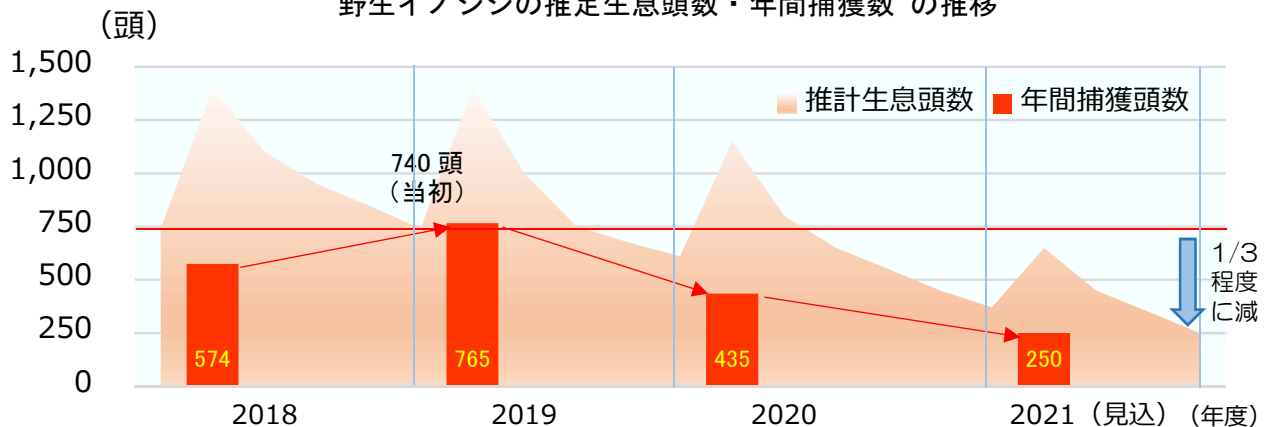
2 現状

- ・ イノシシの捕獲頭数は、2019 年度以降は毎年度減少。今年度はさらに減少し、このまま推移すると両市とも 100 頭前後になる見込み。
- ・ イノシシによる農業被害額は、豊橋市は近年横ばい傾向、田原市は 2018 年度以降減少が続き、2020 年度は 2018 年度の 10 分の 1 以下。
- ・ 渥美半島地域（豊橋市・田原市）の野生イノシシの生息頭数は、捕獲強化に加え、豚熱の影響により、当初の 740 頭から大幅（1/3 程度）に減少していると考えられる。
- ・ ただし、愛知県北部～中部地域では、2020 年頃からイノシシの生息頭数が急増（元の状況に回復）する傾向にあるため、渥美半島地域でも、今後同様に生息頭数が急激に増加する可能性がある。

イノシシによる農業被害額及び捕獲頭数の推移



野生イノシシの推定生息頭数・年間捕獲数 の推移



3 当面の取組・ロードマップ（案）

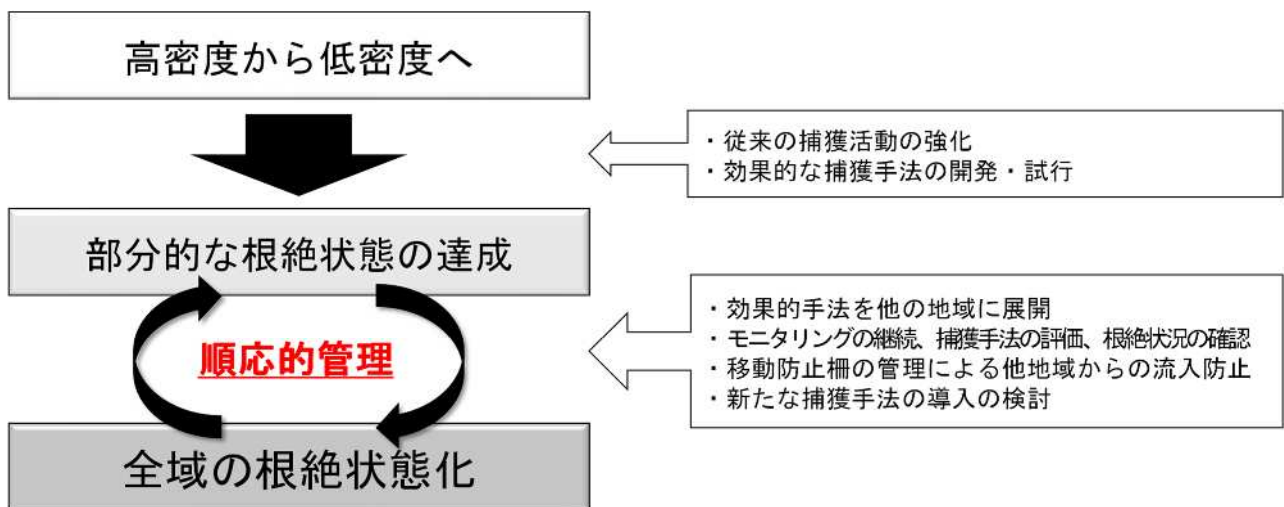
<短期的（2021～2022年度）目標>

地形や移動防止柵を活用し、特定の区域（分断された区域）をモデルエリアとして、選択的な捕獲強化により、部分的な根絶状態（注）の達成を目指す。

<長期的目標>

部分的な根絶状態を達成し、その手法を他の区域へ展開して、渥美半島地域全域での根絶状態の達成を目指す。

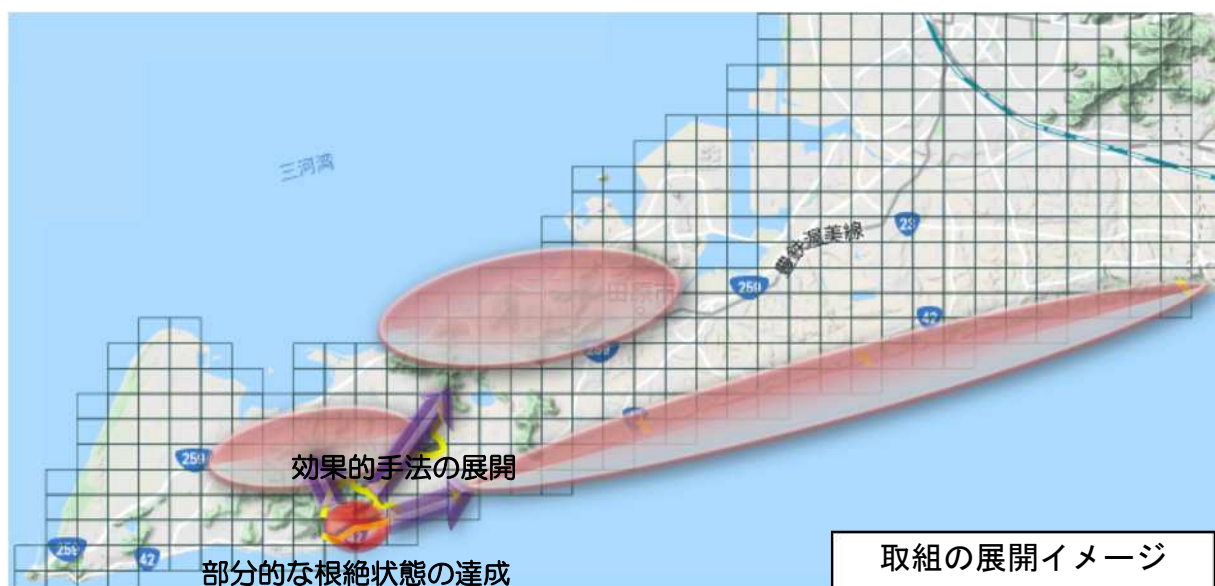
（注）根絶状態の指標案は4のとおり



<課題>

- 捕獲等に係る地元の理解・支援
- 捕獲従事者のモチベーション等の捕獲圧の維持

- 必要となる予算措置
- 根絶状態の確認方法（探索犬の確保等）



4 根絶状態（極低密度状態）の指標（案）

以下の指標を全て満たすことで、その時点において「根絶状態」となったと判断する。

指標案		継続期間	備考
無人撮影カメラでの撮影回数	0回/月	3か月程度	分断された区域で判断
餌の食跡や新たな生息痕の確認	0回/回	1年程度	調査を2回程度実施
捕獲頭数	0頭/月	6か月程度	従来 of 捕獲圧下で判断
探索犬を使用した生息確認	0頭/km ²	2回程度	最終確認時に実施

5 今後の具体的取組（案）

（1）生息状況調査

- 無人撮影カメラの設置等による生息状況調査を継続し、生息密度・生息頭数の推計、根絶状態の達成状況の確認、効果的な捕獲手法の検討を行う。

（2）成獣の捕獲促進

- 個体数削減を目的とする場合、成獣の捕獲推進が必要だが、歯列による分析結果からも、未だ幼獣の捕獲が多い状況である。
- このため、成獣の捕獲推進について、改めて周知を行うとともに、イノシシを捕獲した場合の助成について、成獣と幼獣の単価に差を設け（令和4年度実施見込み）、成獣の捕獲を誘導する。

（3）効果的捕獲促進事業の実施

- 低密度となったイノシシの効果的な捕獲手法の開発・試行を実施する。
- 具体的には、餌によりイノシシを誘引し、シャープシューティング*と移動式囲いわなの組み合わせや、移動防止柵を活用した追い込み猟等の試行捕獲を実施する。

⇒ これにより部分的な根絶状態の達成を図り、効果的な手法は他エリアへ展開していく。



2021年度に試行する移動式囲いわな

※ シャープシューティング

シカの個体数を抑制する手法としてアメリカで考案された。群れを一度に捕まえるため、事前に餌場を作って誘引し、狙撃する手法。

（4）捕獲事業者の技術研修

- 捕獲業務の委託先となる「認定鳥獣捕獲等事業者」を対象に、捕獲技術向上のための研修会を開催し、捕獲成果の向上を図る。